

ロー」と呼びかけられ勝手に写真を撮られたり。周囲から「大きくなったらいじめに気をつけて」と忠告されることもあります。人は違って当たり前であり多様性が大切だ、と言って看護を教えてきたはずなのに、見た目に周囲と異なる自分の娘を必要以上に案じる自分がいることに気づかされる毎日です。

アフリカンキッズクラブ関西では、これまで活動し

てこられた皆さんから知恵をお借りしながら、まずはアフリカンルーツを持つ子どもたちが楽しんで集まれる場を創り上げていきたいと考えています。さらに、関わる大人たちがゆるやかに連帯しながら、成長しあえる場であるとうれしいと思います。私自身も、アフリカンキッズクラブの子どもたちと一緒に未来を考え、学び続けていきたいと願っています。

## アフリカンキッズクラブ関西の開始に込めた想い My thoughts on the establishment of African Kids Club Kansai

長谷川 裕大

Hasegawa Yuta

私にはケニア出身の妻との間に5歳の元気な息子がいます。私たちは、日本×ケニアの国際結婚家庭ではありますが、私も妻もミックスルーツではありません。友人知人の経験を見聞したり、書籍等を通じて、ある程度ミックスルーツに関する知識は持っているつもりですが、自身が当事者としての経験はないので、ミックスルーツの子どもたちの立場や心理を真に理解することはなかなか難しいと思っています。

今後、息子が成長するにつれ、社会のさまざまな人たちとのかかわり合いが増えていき、良いこともそうでないことも、いろいろな経験をしていくことになると思います。時には、恐らく相手の「無知」から来るぶしつけな言動に驚き、悲しみ、怒りを感じることもあるかも知れません。自分の中の複数のルーツについて考え、困惑することもあるかも知れません。なかなか変わらない日本社会に、やり場のない何とも表現しづらい複雑な感情を抱くこともあるかも知れません。

そんな時、ごく身近に、自分と似たルーツ、バックグラウンドをもつ友人知人がたくさんいて、思っていることを気軽に共有、相談し合えたらどうだろう。また、ミックスルーツの子どもをもつ家族同士も、思っていること、困っていることを気軽に相談したり、時には、我が子だけでなく、他の家庭の子どもたちの生の声を直接聞ける機会がもてたらどうだろう。

そんなことを考えている時に、アフリカンキッズクラブ

のこのことを知り、アフリカにルーツをもつ子どものママパパと成長したユース世代の皆さんとの交流イベントに参加したことで、上記のような場を作りたいという考えがより強くなりました。アフリカンキッズクラブは、関東、東海での活動をしてきていますが、私たちが住む関西ではまだということだったため、複数の有志のみなさんと一緒にぜひ始めようということになりました。

関西の活動は2021年夏に始まったばかりですので、これから皆さんと一緒にいろいろ考えながら、良い環境を作っていきたいと思っています。まだまだコロナ禍の制約もあり、もどかしいところもありますが、状況を見ながら少しずつ活動範囲を広げていきたいと思っています。

イベントに参加いただけるお子さんやご家族、事務局メンバーとして運営に携わってくださるご家族やユースの皆さん、広く募集しています！



兵庫県丹波市にて家族と

2019年8月

はせがわ ゆうた：1984年東京都町田市に生まれる。2008年フィリピンに留学後、2011年早稲田大学大学院社会科学研究所修士課程修了。商社での海外営業等を経て、2019年よりメーカーにて調達・購買に従事。妻と息子との3人暮らし（来春に第2子誕生予定）。